

**03.01 項 1. 養魚用の稚魚**

繁殖用又は成育しこれを食用に供する等の目的で輸入される稚魚を分類する。これらは、河川等に放流されるものであってもこの項に含まれる。

**0301.92 1. 養魚用のうなぎの稚魚**

うなぎは南方海域で産卵するといわれ、卵からかえったばかりの透明な幼体を「レプトケファラス」といい、これが海流により河口等に到着するころのものを「シラス」という。

上記「シラス」がえび、魚、貝等を食べて成長したものを「クロコ」といい、もう一段階成長したものを「ビリ」という。

これらが川や沼で、自然に成長したものが天然ものである。一方、これらを捕獲し養殖池に移し魚貝肉、配合飼料等を与えて育てたものが養殖ものである。通常 120～150 グラム程度に成長した段階で取り上げ、食用に供される（参考 I 及び II を参照）。

輸入されるうなぎについて、「養魚用の稚魚」とは、我が国のうなぎ養殖業界において一般にシラス、クロコ又はビリと称される種苗用うなぎに相当する成長段階のうなぎで、一尾の体重が 13 グラム以下のものとする。

なお、この基準の適用に際しては、便宜 1 キログラムにつき 77 尾以上のものを養魚用の稚魚として取り扱って差支えない。ただし、この場合各尾の大きさがおおむね等しいことが必要である。

## (参考Ⅰ)

「天然うなぎ」の大きさによる業界の分類別

名 称	重量 (g)	体長 (cm)	特 長
(レプトケラファス) シラス	0.13~0.2	5.5~6	(後期稚魚) 体色素が出現せず透明である。
クロコ	0.2~0.5	5.5~7	(幼魚) シラスより大きさが時には少し縮む。
ビリ	0.5~13	7~17	17cm でうろこが発達する。 胴部分の太さは鉛筆程度である。
中	13~14	17~26	メソ、ニューメンとも呼ぶ。
上中	40~75		38g~56g 程度のメソより大きめのものをサジと呼ぶ。
アラ下	75~110		
並アラ	110~150		
上アラ	150~300		

## (参考Ⅱ)

「養殖うなぎ」の標準的な呼称と大きさ

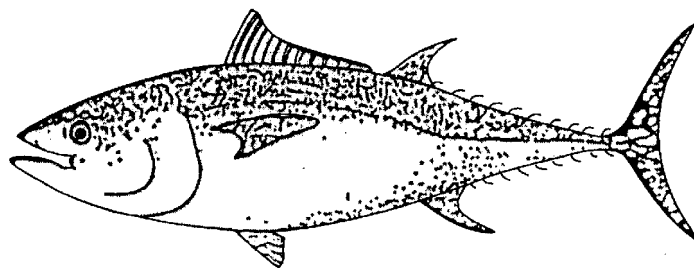
名 称	重量 (g)	体長 (cm)	特 長
シラス	0.13~0.20	5~7	天然産シラスうなぎ
クロコ	0.3~0.5	6~9	開河3月以降
養ビリ	0.8~13.0	10~24	シラスを飼育したもの
養中	15~40	25~34	養太を生産する原料
選り下	70~100	35~39	成品を選別した残り
養太	~200	40~48	成品(食用)
中ボク	~250	~55	輸出用
ボク	250~		輸出用

0301. 94、0302. 35、0303. 45 1. くろまぐろ (トウヌス・ティヌス及びトウヌス・オリエンタリス)

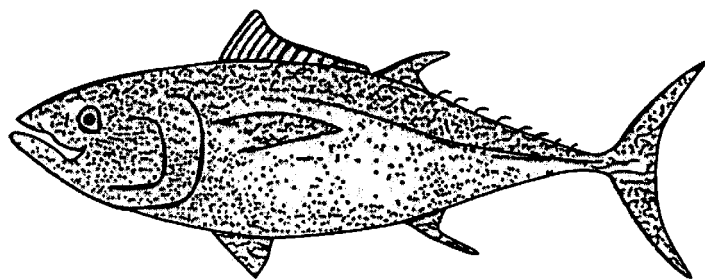
「くろまぐろ (*Thunnus thynnus* (英名 Atlantic Bluefin tuna)、*Thunnus orientalis* (英名 Pacific Bluefin tuna))」とは、北太平洋及び北大西洋の温暖域に広く分布し、体長は 2.5 メートル程度、体の背部は濃青黒色、腹部は灰色である。

なお、「みなみまぐろ (*Thunnus maccoyii*、英名 Southern Bluefin tuna)」は、「くろまぐろ」に似ているが第 0301. 95 号、第 0302. 36 号又は第 0303. 46 号に分類されるまぐろである。「みなみまぐろ」の特徴としては、赤道より南に生息すること (ジャワ島、オーストラリア東海域、南海域、中部・東部太平洋の南半球に広く分布)、体の背部は晴青色、腹部は銀白色、尾部の隆起が黄色であること、及び体長が 1.8 メートル前後と「くろまぐろ」より小振りであることが挙げられる。

[くろまぐろ]



[みなみまぐろ]



0301.99 1. にしん（クルペア属のもの）、たら（ガドウス属、テラグラ属又はメルルシウス属のもの）、ぶり（セリオラ属のもの）、さば（スコムベル属のもの）、いわし（エトルメウス属のもの、サルディノプス属又はエングラウリス属のもの）、あじ（トラクルス属又はデカプテルス属のもの）及びさんま（コロラビス属のもの）

魚の呼び名は、地方により、または魚の成長の時期により異なるものが多いので、この細分に分類される主要な魚は次表に標準名に属名を付して範囲を明らかにした。したがって、呼び名が異なっても付記された属に該当するものは、この細分に分類する。

属名	主要魚種		
	標準和名	学名	英名
genus <i>Clupea</i>	にしん	<i>C. pallasii</i> <i>C. harengus</i>	Pacific herring Atlantic herring
genus <i>Gadus</i>	たら（まだら）	<i>G. macrocephalus</i>	Cod
genus <i>Theragra</i>	すけそうだら	<i>T. chalcogramma</i>	Alaska pollack
genus <i>Merluccius</i>	メルルーサ	<i>M. merluccius</i> <i>M. capensis</i> <i>M. bilinearis</i> <i>M. productus</i>	Europe hake Cape hake Silver hake Pacific hake
genus <i>Seriola</i>	ぶり ひらまさ（ひらす） かんばち	<i>S. quinqueradiata</i> <i>S. lalandi</i> ( <i>S. aureovittata</i> ) <i>S. dumerili</i> ( <i>S. purpurascens</i> )	Yellow tails
genus <i>Scomber</i>	まさば（ひらさば） ごまさば（まるさば）	<i>S. japonicus</i> <i>S. tapeinocephalus</i>	Mackerels
genus <i>Etrumeus</i>	うるめいわし	<i>E. teres</i>	Round herring
genus <i>Sardinops</i>	まいわし	<i>E. melanosticta</i>	Sardine (Pilchard)
genus <i>Engraulis</i>	かたくちいわし	<i>E. japonica</i> <i>E. encrasicolus</i> <i>E. mordax</i> <i>E. australis</i>	Anchovy
genus <i>Trachurus</i>	まあじ	<i>T. japonicus</i>	Jack mackerel (Horse mackerel)
genus <i>Decapterus</i>	むろあじ まるあじ おあかむろ もろ（むろ） くさやもろ	<i>D. muroadsi</i> <i>D. maruadsi</i> <i>D. russellii</i> <i>D. lajang</i> <i>D. macrosuma</i>	Scads
genus <i>Cololabis</i>	さんま	<i>C. saira</i>	Saury

**0301.99 2. ぶり（セリオーラ属のもの）**

ぶり（セリオーラ属のもの）の養魚用の稚魚とは、全長 15 センチメートル以下のものをいう。

なお、ぶり（セリオーラ属のもの）のうち、かんぱちの養魚用の稚魚には、上記の他に、「活のかんぱち稚魚の養殖用の確認について」（平成 24 年 5 月 8 日 24 水漁第 248 号）に基づき発給された養殖用途の確認書（活のかんぱち稚魚の養殖用の確認について）が輸入申告時に税関へ提出されるものも含む（この場合、3 月 1 日から 7 月 31 日までの間に輸入申告が行われるものに限る。）。

（参考）

その他の各種の養魚用の稚魚の取扱いは、次のとおりである。

魚 種	稚魚の基準（全長：頭の前端から尾びれの後端までの長さ）
すずき	全長 15 センチメートル以下
めばる	全長 10 センチメートル以下
く え	全長 15 センチメートル以下
ほうせきはた	全長 10 センチメートル以下
とらふぐ	全長 10 センチメートル以下
しまあじ	全長 15 センチメートル以下
いしだい	全長 10 センチメートル以下
くろだい	全長 10 センチメートル以下
ひらめ	全長 10 センチメートル以下
まだい	全長 10 センチメートル以下

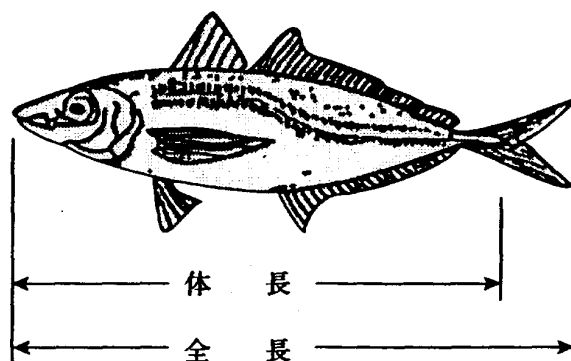
## 0301.99 3. マアジの養魚用稚魚の取扱いについて

輸入されるまあじ（真鯨）について、「養魚用の稚魚」とは、全長が 70 ミリメートル程度以下のものとする。なお、この基準の適用に際しては、便宜 1 キログラムにつき 150 匹以上のもの（1 匹当たり約 6.7 グラム）を養魚用の稚魚として取り扱って差し支えない。

（参考）

体長とは、口の先端（頭の前端）から脊柱後端までの長さをいう。――標準体長

全長とは、口の先端（頭の前端）から尾ひれの後端までの長さをいう。

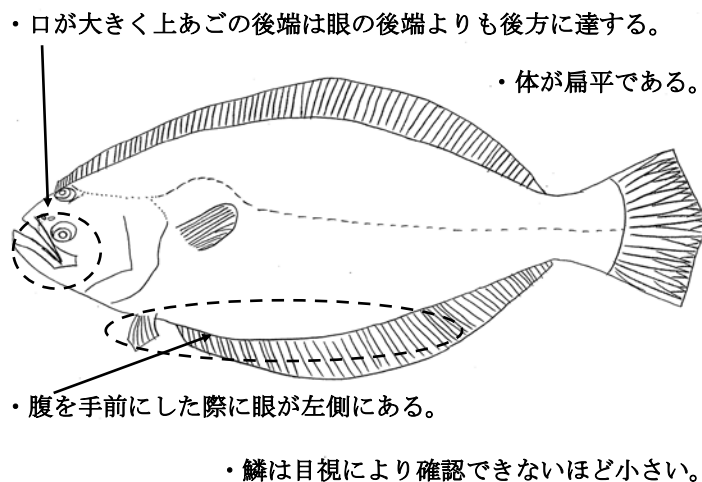


## 0301.99 4. ひらめ（パラリクティス属のもの）

この細分には、日本周辺の太平洋西部及び南北アメリカ大陸の沿岸域に分布するかれい目かれい亜目ひらめ科ひらめ属（パラリクティス属）のものを分類する。

主要種である「ひらめ（学名 *Paralichthys olivaceus*、英名 Japanese flounder、あるいは Bastard halibut、Olive flounder など）」は千島列島以南から南シナ海に分布する魚であり、体は扁平で、腹を手前にした際に眼が左側にある。さらに、口が大きく上あごの後端は眼の後端よりも後方に達し、鱗は目視により確認できないほど小さい。

なお、主なひらめ属（パラリクティス属）の魚は次表のとおりである。



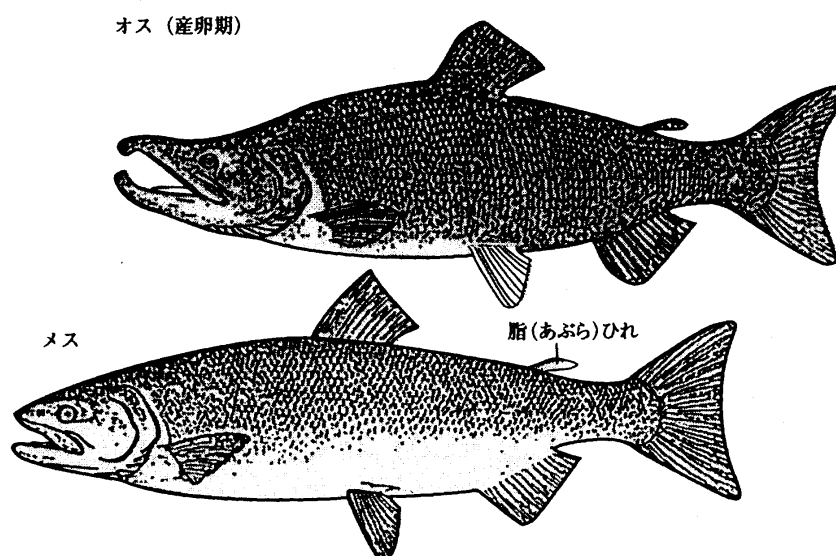
学名	英名	邦名	主な生息地
<i>P. adspersus</i>	Fine flounder		東部太平洋沿岸 (エクアドル、チリ)
<i>P. aestuarius</i>	Cortez flounder		中東部太平洋沿岸 (米国、メキシコ)
<i>P. albigutta</i>	Gulf flounder		西部大西洋沿岸 (米国、メキシコ、コロンビア)
<i>P. brasiliensis</i>	Brazilian flounder		南西部大西洋沿岸 (ブラジル)
<i>P. californicus</i>	California flounder		東部太平洋沿岸 (米国、メキシコ)
<i>P. coeruleosticta</i>			南東部太平洋沿岸 (チリ)
<i>P. delfini</i>			南東部太平洋沿岸 (チリ)
<i>P. dentatus</i>	Summer flounder	ナツビラメ	北西部大西洋沿岸 (米国)
<i>P. fernandezianus</i>			南東部太平洋沿岸 (チリ)
<i>P. hilgendorffii</i>			南東部太平洋沿岸 (チリ)
<i>P. isosceles</i>		ブラジルビラメ	南西部大西洋沿岸 (ブラジル、アルゼンチン)
<i>P. lethostigma</i>	Southern flounder		西部大西洋沿岸 (米国)
<i>P. microps</i>			南東部太平洋沿岸 (チリ)
<i>P. olivaceus</i>	Japanese flounder Bastard halibut Olive flounder	ヒラメ	西部太平洋沿岸 (日本、韓国、中国)
<i>P. orbignyianus</i>			南西部大西洋沿岸 (アルゼンチン、ブラジル)
<i>P. patagonicus</i>	Patagonian flounder		南東部太平洋沿岸 (チリ)、南西部大西洋沿岸 (ブラジル、アルゼンチン)
<i>P. schmitti</i>			南東部太平洋沿岸 (チリ)
<i>P. squamilentus</i>	Broad flounder		西部大西洋沿岸 (米国、メキシコ)
<i>P. triocellatus</i>			南西部大西洋沿岸 (ブラジル、ウルグアイ)
<i>P. tropicus</i>	Tropical flounder	ゴイシビラメ	中西部大西洋沿岸 (コロンビア、ベネズエラ、トリニダードトバゴ)
<i>P. woolmani</i>	Speckled flounder		東部太平洋沿岸 (エクアドル、メキシコ、ペルー)

**03.02 項～03.04 項 1. キングクリップ (King clip) として分類する魚種の範囲について**

関税率表第 0302.89 号、第 0303.89 号、第 0304.59 号又は第 0304.99 号に分類されることとなるキングクリップ (King clip) の範囲については、Ophidiidae 科、*Genypterus* 属の魚で、魚種名が *Genypterus*—と称される魚種をキングクリップとして取り扱うこととする。

**0302.13、0303.11 1. ベにぎけ (オンコルヒュンクス・ネルカ)**

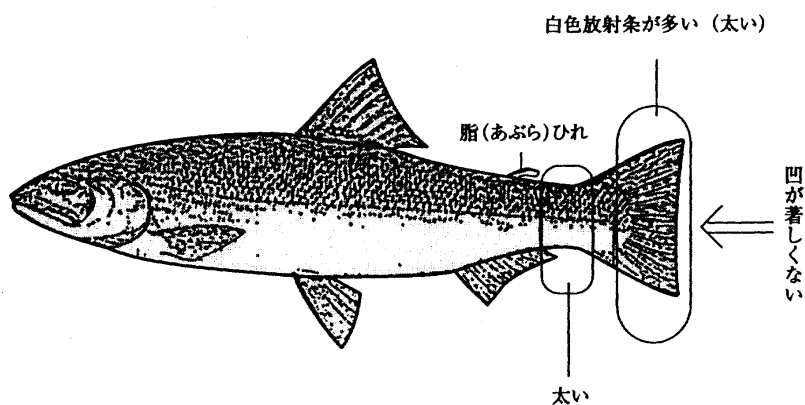
「ベにぎけ (オンコルヒュンクス・ネルカ、英名 Red Salmon, Sockeye Salmon)」とは、北海道、千島、カムチャッカ半島、アラスカ、北米西海岸の北太平洋に分布するサケ属、サケ科の魚で、体長は 80 センチメートルから 90 センチメートル程度、体の背部と各ひれは青黒色、腹部は銀白色 (産卵期のオスは赤色に変色) である。「ベにぎけ」は、他のさけと異なり肉に特有の赤みがある。





## 0302.13、0303.12 1. ぎんざけ (オンコルヒュンクス・キストク)

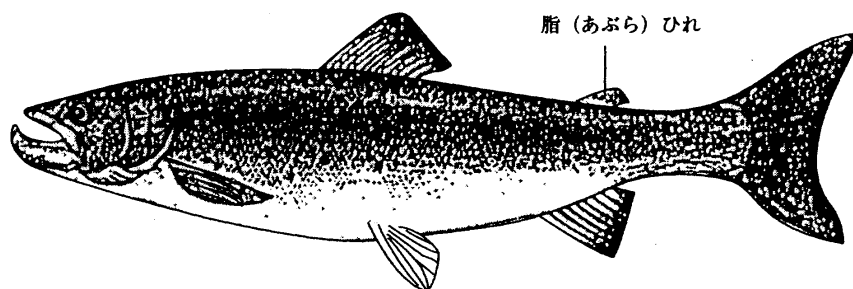
「ぎんざけ (オンコルヒュンクス・キストク、英名 Silver Salmon, Coho Salmon)」とは、北海道、沿海州からカリフォルニアに至る北洋に分布するサケ属、サケ科の魚で、体長は85センチメートル程度、尾びれ後縁は截(せつ)形、体色は背面が青緑色、腹面は銀白色、尾びれ上部に小黑点がある。



## 0302.14、0303.13 1. 大西洋さけ (サルモ・サラル)

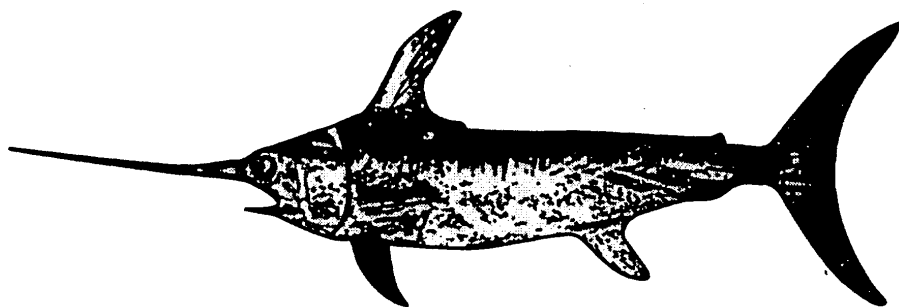
「大西洋さけ (サルモ・サラル、英名 Atlantic Salmon)」とは、西・北大西洋に分布するニジマス属、サケ科の魚で、体長は90センチメートルから130センチメートル程度、体の背部は青黒色、体の表面の広範囲に大きな黒色の斑点が存在する。

(注) 太平洋さけは、「にじます」のように体の表面の広範囲に大きな黒色の斑点が存在しない。



## 0302. 47、0303. 57 1. めかじき

「めかじき (学名 *Xiphias gladius*、英名 Swordfish)」とは、スズキ目、サバ亜目、メカジキ科に含まれる魚のことで、全世界の温帯、熱帯海域に広く分布するものであり、体長は 4.5 メートル程度で、扁平で著しく長い吻、大きな各側 1 条の尾部隆起縁によりスズキ目、サバ亜目、真カジキ科魚類と区別される。



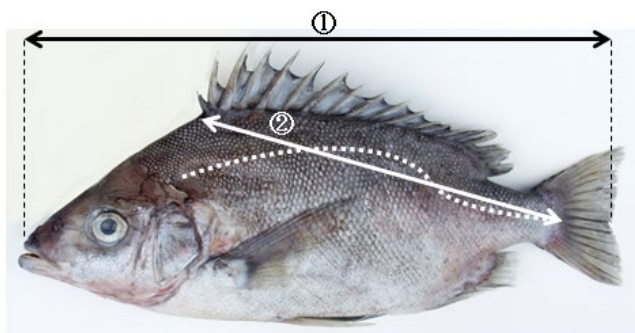
## 0303. 89 1. くさかりつぼだい

この細分には、スズキ目、カワビシヤ科、クサカリツボダイ属の学名 *Pseudopentaceros wheeleri*、英名 North Pacific armorhead のものを分類する。この種は北半球の太平洋に分布する。同属で南半球の大西洋、インド洋及び太平洋に分布する種（学名 *Pseudopentaceros richardsoni*、英名 Southern boarfish 又は Pelagic armourhead）に対して、次の（1）及び（2）の特徴により区別される。

## （1）魚体の長さ

上顎の先端から尾びれの中央部のくぼみの外縁まで（図1①）の長さが 450 ミリメートル以下であり、かつ背びれの基底部の前端から尾びれ基部の中央まで（図1②）の長さが 280 ミリメートル以下であること。

（図1）



## （2）側線

側線（図1点線部）の感覚管の向きが側線の進行方向と同じ（図2①）であること。（一部の感覚管が側線の進行方向よりも上に分枝しているもの（図2②に該当）は、*Pseudopentaceros richardsoni*。）

（図2）



## 0304.99 1. いとより（すり身のものに限る。）

この細分には、すり身のもので、  
イトヨリダイ科 (Nemipteridae) イトヨリダイ属 (Nemipterus)  
のものを分類する。

主なものは、次表のとおりである。

(1) 種名 (latin name)	(2) 邦名 (Japanese common name)	(3) 外国名 (Foreign name)	(4) 特記事項
(1) <i>Nemipterus delagoae</i> Smith	(2) イトヨリ種	(3) Delagoa theadfinbream (US, Ca), Butterfly-bream (Aus, NZ)	(4) 東南亜、インド洋産
(1) <i>Nemipterus virgatus</i> (Houttuyn)	(2) イトヨリ、イトヨリダイ	(3) Golden threadfin-bream (US, Ca), Butterfly-bream (Aus, NZ)	(4) 日本近海、東南亜、インド洋産
(1) <i>Nemipterus bathybius</i> Snyder	(2) ソコイトヨリ、キイトヨリ	(3) Yellowbelly threadfin-bream (US, Ca), Butterfly-bream (Aus, NZ)	(4) 日本近海、東南亜、インド洋産
(1) <i>Nemipterus hexodon</i> (Quoy & Gaimard)	(2) イトヨリ種	(3) Ornate threadfin-bream (US, Ca), Ocellated butterfly-bream (Aus, NZ), Sixtooth threadfin (Thai)	(4) 東南亜、インド洋、南太平洋産
(1) <i>Nemipterus furcosus</i> (Valenciennes)	(2) イトヨリ種	(3) Red-spot threadfin, Butterfly-bream (Thai)	(4) 東南亜、インド洋産
(1) <i>Nemipterus japonicus</i> (Bloch)	(2) イトヨリ種	(3) Japanese threadfin-bream (US, Ca, Thai), Butterfly-bream (Aus, NZ)	(4) 東南亜、インド洋、太平洋産

## 03.05 項 1. たちうお (Frozen salted belt fish)

本品は施塩後冷凍されたたちうおで、頭、内臓、尾及びひれが除去され、二ないし三つ切りにされたものである。

輸入者の説明によると、採捕した漁船内で腐敗及び変質を防ぐために撒塩したもので、これをそのまま基地の冷凍工場で凍結させたものと思われるとのことである。

本品の資料3例について分析を行なったところ、塩分浸透度はそれぞれ3.0%、3.8%及び6.1%である。なお、同一本船で輸入された施塩されていないものの参考分析の結果は、塩分0.2%～0.3%である。

本品は最小塩分浸透度が3%以上であるので塩蔵魚として第03.05項に分類する。

## 0305. 54 又は 0305. 59 1. いりこ、めざし等

魚類の乾燥品製造には、直接火力によって乾燥させるもの、あるいは前処理として熱湯で短時間煮沸し、又は塩水漬けした後乾燥させるものがあるが、これらの処理は一部には風味との関連もあるが、主として乾燥の前処理と認められるものであるから、乾燥魚類として第 0305. 54 号又は第 0305. 59 号に分類する。ただし、更にみりん漬け等の調味処理をしたものは調製品として分類する。

## 0306. 14、0306. 33 又は 0306. 93 1. たらばがに、ずわいがに、がざみ、けがに及びもくずがに

これらの細分には、それぞれ次のものを分類する。

たらばがに：*Paralithodes* 属のもの

ずわいがに：*Chionoecetes* 属のもの

がざみ：*Portunus* 属のもの

けがに：*Erimacrus* 属のもの

もくずがに：*Eriocheir* 属のもの

なお、主なものは次表のとおりである。

品目名	主要種名			
	学名	和名	英名等	主な産地
(タラバガニ科) たらばがに [King crabs]	<i>P. camtschaticus</i>	タラバガニ	King crab, Alaska King	北太平洋 (米国、 カナダ、ロシア 等)
	<i>P. brevipes</i>	ハナサキガニ	King crab Hanasaki crab	北太平洋 日本近海
	<i>P. plathpus</i>	アブラガニ	King crab Abura crab	北太平洋
(クモガニ科) ずわいがに [Snow crabs]	<i>C. opilio</i>	ズワイガニ、エ チゼンガニ、マ ツバガニ、オビ リオ	Snow crab, Tanner crab	北太平洋、北日 本沿岸
	<i>C. bairdii</i>	アメリカズワ イガニ、バル ダイ	Snow crab	米国、カナダ
	<i>(C. tanneri)</i>		Tanner crab	
	<i>(C. angulotus)</i>			
	<i>(C. phalanguim)</i>			
	<i>C. japonicus</i>	ベニズワイガニ	Red snow crab, Red tanner crab	日本近海

<p>(ワタリガニ科) がざみ [Swimming crabs]</p>	<p><i>P. trituberculatus</i> <i>P. pelagicus</i> <i>P. sanguinolentus</i> <i>P. holsatus</i> { (<i>P. depurator</i>) (<i>P. corrugatus</i>) <i>P. gracilimanus</i> <i>P. hastatoides</i> <i>P. gladiator</i></p>	<p>ガザミ、ワタリ ガニ タイワンガニ ジャノメガザミ   ヒメガザミ イボガザミ</p>	<p>Blue swimming crab Sand crab Red-spotted swimming crab Swimming crab, Cangrejo, Cambaro mazargano Swimming crab</p>	<p>日本近海、中国、 台湾 太平洋、インド 洋、紅海 太平洋、インド 洋、紅海 ヨーロッパ 東南アジア 太平洋、インド 洋 太平洋、インド 洋</p>
<p>(クリガニ科) けがに [Horeshair crabs]</p>	<p><i>E. isembeckii</i></p>	<p>ケガニ、 オオクリガニ</p>	<p>Horehair crab, Korean crab, Kegani-crab Rock-crab, Eliza-crab</p>	<p>北太平洋、日本 近海</p>
<p>(イワガニ科) もくずがに [Chinese mitten crabs]</p>	<p><i>E. sinensis</i>  <i>E. hepuensis</i> <i>E. japoonica</i></p>	<p>チュウゴクモク ズガニ、シナモ クズガニ、シャ ンハイモクズガ ニ  モクズガニ</p>	<p>Chinese mitten crab, Chinese freshwater edible crab  Japanese mitten crab</p>	<p>中国、朝鮮半島   朝鮮半島、日本、 台湾、ロシア</p>

参考：もくずがにの特徴

甲羅の形が概ね六角形で、鉗脚に毛を有する（写真参照）。

チュウゴクモクズガニ (*E. sinensis*)



モクズガニ (*E. japonica*)





**0306.36 1. 養殖用又は放流用のもの（クルマエビ属のものに限る。）**

輸入統計品目表第 0306.36 号における「養殖用又は放流用のもの（クルマエビ属のものに限る。）」（統計細分 110）には、クルマエビ属のもの（学名 *Penaeus* spp.）が分類される。水産資源保護法で輸入規制の対象とされているものであり、輸入申告に際しては、同法第 13 条の 2 第 4 項に規定する、農林水産大臣の交付する輸入許可証の提出を必要とする。

**03.07 項 1. もんごういかの取扱いについて**

もんごういかとは、コウイカ科のいかのうちヨーロッパコウイカ、トラフコウイカ、カミナリイカ、コブシメ及びオーストラリアコウイカをいう。

**0307.43 又は 0307.49 1. あかいか**

「あかいか（学名 *Ommastrephes bartramii*、英名 Neon Flying Squid）」とは、ツツイカ目、アカイカ科、アカイカ属のもので、体色は背側が濃い黒紫色、腹側が赤褐色という特色があり、「むらさきいか」とも呼ばれる。胴長は 40 センチメートルから 60 センチメートル程度で、北部太平洋に分布する。

同じツツイカ目、アカイカ科のいかのうち、日本周辺からオホーツク海及び東シナ海に分布する「するめいか（学名 *Todarodes pacificus*、英名 Japanese Flying Squid）」は、胴長は最大でも 30 センチメートル程度、体色は腹側が白色であり、あかいかと区別される。また、東部太平洋に分布する「アメリカおおあかいか（学名 *Dosidicus gigas*、英名 Jumbo Flying Squid）」は胴長が 100 センチメートルになる大型のものである点で、あかいかと区別される。

## 0307.71～0307.79 1. あさり

この細分には、  
マルスダレガイ科 (Veneridae) のもののうち、Ruditapes、Venerupis、Tapes 属のものを分類する。

主なものは、次表のとおりである。

学名	旧学名	和名
Ruditapes philippinarum	Tapes japonica (T. philippinarum)	アサリ
R. variegatus	T. variegata	ヒメアサリ
R. decussata	T. decussates	ヨーロッパアサリ
Venerupis aurea	T. aureus	ニヨリヨーロッパアサリ
Tapes literatus	T. literata	リュウキュウアサリ

なお、属名の確認が現品で困難なときは、インボイス等の添付書類に記載された品名によって差支えない。

## 0307.91～0307.99 1. しじみ

この細分には、

シジミ科 (Cyrenidae) コルビキュラ属 (Corbicula)  
のものを分類する。

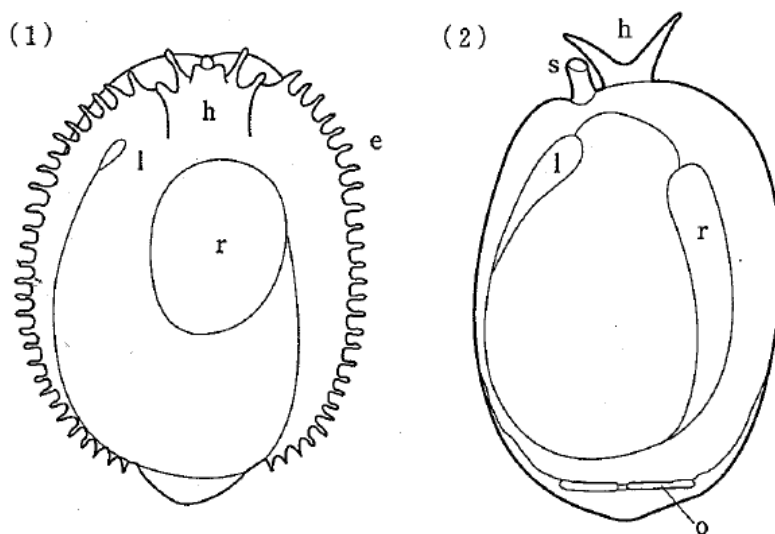
なお、属名の確認が現品で困難なときは、インボイス等の添付書類に記載された品名によって差支えない。

0307.91 1. 「FROZEN ABALONE」又は「FROZEN CHILIAN ABALONE」等と称して我が国に輸入されるチリアワビ（チリ名 LOCO、和名あわびもどき）の分類について

チリ及びペルーの周辺海域において捕獲される「チリアワビ」はアクキガイ科に属し、ミミガイ科に属する「あわび」（関税率表第 0307.81 号、第 0307.83 号又は第 0307.87 号）とは別種のものであり、生きているもの、生鮮のもの及び冷蔵したものにあっては同表第 0307.91 号（統計細分 099）に分類される物品である。

（参考）

（1）「あわび」と「チリアワビ」の生物学的分類



殻、鰓、内臓を取り除いたあわび（1）及びチリアワビ（2）の背面図

e 上足突起 h 頭 i 左殻筋 o 蓋の付着した跡

- （2）「あわび」には、上足突起があり、あしのまわりがギザギザになっているが「チリアワビ」はなめらかである。
- （3）「チリアワビ」には通常巻貝にある小さな蓋があり、むき身になっても蓋の付いた跡が認められるが「あわび」にはない。
- （4）チリ及びペルーの周辺海域にはミミガイ科の「あわび」は棲息しない。